学校番号	T3016

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	キャリア数学	単位数	２単位	年次	２・３・４年次
使用教科書	新　高校の数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	授業プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「定義・公式を知る⇒例題を教員と一緒に考える⇒例題を解決する⇒演習問題に一人で取り組む⇒演習問題を自力で解決する⇒解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった過程で自ら考えることを主軸として活動を行います。
・途中の式を必ず書きましょう。
答だけを書くのではなく、途中の式を書くことを大切にしてください。自分がどこで間違えるのかがわかり、振り返り学習が可能になります。
・定期的に課題を提出してもらいます。提出期限を守り、必ず提出しましょう。
・ノートを用意してください。
・中学校までの内容や、基本的な問題にも取組みます。

２　学習の到達目標

数と式、２次関数、図形と計量、集合と論証について理解する。
また、基礎的な知識や技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を育てることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、集合における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 数と式、集合において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、集合における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	三角比	三角比 三角比の性質 三角比の拡張	a:三角比の相互関係を用いて、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。 30°、45°、60°の三角比を直角三角形の辺の比から求めることができる。 三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身につけている。 三角比の表の意味を理解し、使うことができる。 b:座標表面上の半円を用いて、鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 具体的な事象について三角比を使って考察することができる。 c:三角比の相互関係に関心をもち、考察しようとする。 鈍角の三角比を考えることに関心をもち、鈍角の三角比との関係について考察しようとする。	・定期考査 ・提出課題 ・問題演習 ・観察	・定期考査 ・問題演習 ・観察等	・受講の態度の確認 ・提出課題 ・問題演習 ・観察
後期	三角比と図形の計量	正弦定理 余弦定理 三角形の面積	a:三角比や正弦定理・余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができる。 正弦定理・余弦定理などを用いて、三角形の残りの要素を求めることができる。 三角比を用いた平面図形や空間図形の計量に関する知識を身につけている。 b:三角比を用いて、三角形の面積を表す過程や空間図形の計量を考察することができる。 c:正弦定理や余弦定理を用いて、	・定期考査 ・提出課題 ・問題演習 ・観察	・定期考査 ・問題演習 ・観察等	・受講の態度の確認 ・提出課題 ・問題演習

		空間図形の計量	三角形の辺の長さや角の大きさを調べようとする。三角比を用いて三角形の面積や空間図形の計量に活用しようとする。			・観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度